

前期第1回

「栃木県南部の大地の歴史」

平成30年9月23日(日)

講師：宇都宮大学名誉教授 ^{さかい}酒井 ^{とよさぶろう}豊三郎 氏

最近、地質に基づく災害が頻発しており、栃木県南部の土地形成について講演頂いた。先ず、日本列島の母体形成後、雨風による浸食で山・谷・川・平地ができた。海面の水位の上下に伴って砂等の堆積と浸食があり、今日の地層ができた。葛生等の山のチャートや砂岩は3畳紀からジュラ紀のもので、その上に火山灰の関東ローム層が乗る。数十万年前の更新世後期に堆積し、それから更新世末期以降大きく浸食を受けてきた。

栃木県の地下深く2つのプレートがせめぎあって、地震エネルギーを放出しており、大地震は起こり難いことが分かった。講義後、佐野市境界の安全性等について多数の質問があった。急斜面はそれなりに危ない。ハザードマップで確かめよう。(川合 将義)



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・初めて参加させていただきました。S41年から今日まで歴史を刻まれました。今後毎年続けて参加してまいります。
- ・後半の地元地質説明はおもしろかった。
- ・もう少し時間はほしかった。大変興味がありました。
- ・大変素晴らしい講演でした。酒井先生の造詣の深さには、ただただ感嘆するばかりでした。